

令和4年度前期 東予東中学校学校評価結果と改善策

西条市立東予東中学校

【学校生活】

「楽しく学校生活を送ることができている」の項目では、肯定的な意見が生徒、保護者共に93%となっており、ほとんどの生徒が楽しく学校生活を過ごすことができている。また、「いじめやいたずらでいやな思いをしていない」の項目も、肯定的な意見の生徒は92%（保護者87%）を占めている一方で、いやな思いをしていると回答する生徒は6%（保護者8%）となっている。教員の目の届かないところがないように、休み時間や昼休み等、廊下等で生徒の様子を見守っており、そのとき、嫌な思いをさせる言動を見掛けたらその場で注意したり、生徒の様子の変化を早めに察知し、相談活動をしたりしている。しかし、これでも十分ではないという結果を受け止め、全教職員でもう一度生徒の様子を見守ることの徹底や、相談活動の充実を図り、生徒が安心して日々の学校生活を送っていけるようにしていきたい。

学習に関して、教員のアンケートで「教材を工夫し、生徒に分かりやすい授業の展開を行っている」についての肯定的回答が100%となっている。一人一台端末が導入されてから時間がたち、各教科の特性を見つめながら授業の展開に応じてタブレットを活用できるように工夫している。今後も、生徒にとって分かりやすい授業を心掛け、学習の内容が定着していくよう、今後も研究を進めていきたい。

「分からないところを先生や友達に相談している」では、88%の生徒が分からない問題について解決を図ろうとしている。数年前から取り組んでいる「学びあい学習」の効果が表れており、特に生徒同士での活動では意欲的に会話をする姿が見られ、学習内容の定着につながっていることが考えられる。今後も、授業に「学びあい学習」を適宜取り入れ、生徒の得意な分野が生かせられるような授業を行っていきたい。

「学校は落ち着いた雰囲気です」では、生徒の肯定的な意見は73%であるが、教員のアンケート結果では、肯定的な意見が100%となっており、「落ち着いた雰囲気の授業」について教員の受け止め方が十分ではないと感じられる。授業担任が早く教室へ行き、授業の2分前着席、黙想で静かに授業に入る雰囲気づくりに取り組んでいるため、授業の入りは落ち着いていると考えられる。授業中の取組が十分でない生徒や落ち着きがない生徒への対応として、真剣に授業に取り組むことの意義を理解させ、その場での指導を徹底していく必要がある。加えて、生徒が夢中になれるような授業が展開できるように、教員の授業改善も必要である。

保護者の83%の方が「ホームページや学校だよりをよく見ている」ということだった。ホームページは毎日更新しているので、今後もホームページや学校だよりを充実させ、様々な面から学校生活の様子を発信していきたい。

「部活動は日々充実し、自分のためになっている」の問いに、実感していると答えた生徒が88%と高い評価となった。保護者からも90%高い評価を得ており、依然として新型コロナウイルス感染症のために活動が制限される部分もあったが、生徒の成長のために十分な活動ができていると考えられる。また、教員が部活動中に付くことはもちろん、下校時の確認まで行い、安全や人間関係の様子を見守る体制をとっている。今後も継続していかなければならないと考えている。

【家庭生活】

88%の保護者が、生徒たちが地域でよく挨拶をしていると感じており、生徒たちも地域の方に挨拶をしている様子がある（生徒94%）。校内でもよく挨拶ができていると感じている教員も多い（教員100%）ので、今後も挨拶の意義を再確認し、活気のある学校の雰囲気を作る意識を高めていきたい。

「家庭で学校の様子や将来の進路、生き方について話をしている」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が79%おり、保護者のアンケートでも、「お子さんと家庭で将来の進路や生き方について話している」の質問で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて85%だった。1年生はまだ進路については考えることが少なく、将来について漠然としているが、3年生になると目前に迫った進路選択について保護者と話す機会が多くなることから、1年生の時からキャリア教育を充実していく必要がある。

「家庭学習の一日平均時間」2時間以上が21%、1時間以上2時間未満は47%、1時間未満は26%であった。各教科の教員が宿題の未提出者への指導を継続してきたことで、宿題等を家庭で行う習慣が身に付いてきたと思われる。しかし、今年度の全国学力状況調査によると、全国や愛媛県平均を下回っていることが分かった。家庭学習が1時間未満の生徒が約3割いることが引き続き課題である。学力向上には家庭での学習習慣の定着が重要である。教師側も宿題の質の向上、家庭学習の習慣化、家庭学習の質の向上を目指し、取組の検討、改善が必要である。

「交通ルール（登下校中の並進をしない・ヘルメット着用等のルール）を守れている」については、生徒・保護者の95%以上が高い評価をしており、今年度は教職員のアンケート結果でも92%と高かった。今後、時折見掛ける並進について指導していきたい。1学期中には、自転車事故が1件あった。今後も一時停止や左右の確認など、基本的な交通マナーを今一度確認するとともに、事故が起こりやすい場所や、生徒が危険な横断をしているところなどを中心に見守り、事故を未然に防ぎ、交通ルールや交通マナー向上を目指していきたい。

「家庭でゲーム機やスマホの利用についてのルールや約束ごとを決め、守っている」の項目は、83%の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」というふうに答えているが、保護者は65%にとどまっており、生徒の意識と保護者の意識にずれが見られる。ゲーム機やスマホの利用のために睡眠不足になることで体調が整わなかったり、学習時間が削られ、学力が下がっていく生徒がいたりするので、気になる生徒にはルールを守り、トラブルを未然に防いでいくよう、保護者と連絡を取り合いながら指導していきたい。

「朝食は毎日とっている」については、5%程度が朝食をとっていないという現状である。健康は「早寝・早起き・朝ごはん」と言われるように、生活リズムを整え、健康的な生活を送るためにも、生徒全員が確実に朝ごはんを食べて登校できるように家庭に協力をお願いし、早急に改善していかなければならない。

前期のアンケート結果の反省を生かし、生徒の問題を早期に把握できるよう、2学期以降も教育相談タイムなどを利用し、全ての生徒との相談活動を行っていききたい。そしてアンテナを高く張り、学校生活の様子の見守りを日々継続し、必要に応じて保護者や関係機関、地域にも協力をお願いして指導していきたい。